



こころを整える～文化発心
第26回国民文化祭・京都2011

総合フェスティバル

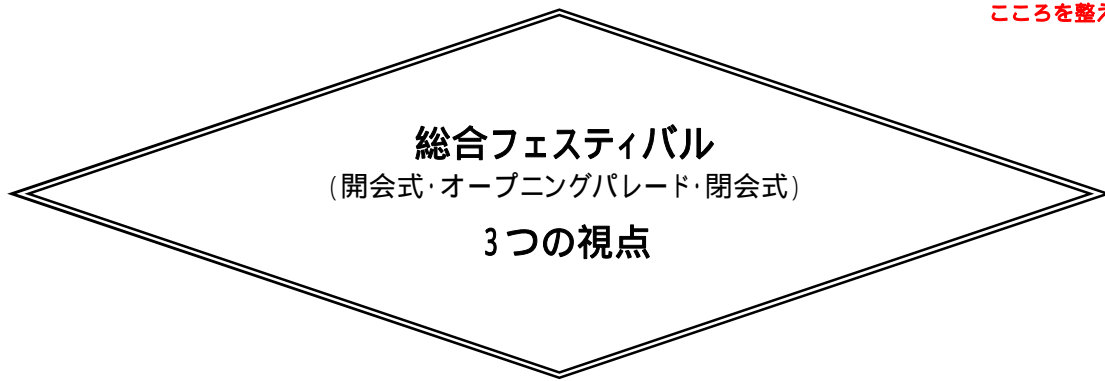
(パレード、開会式、閉会式)

基本コンセプト



平成22年3月

第26回国民文化祭京都府実行委員会



京都ならではの総合フェスティバルの実現に向けて、国内最大の文化の祭典にふさわしい舞台と演出を実現するため、総合フェスティバル（3事業）全体の演出構成及び会場展開に、共通の3つの視点を設定する。

1. 「大切な『こころ』のメッセージ」を発信

テーマ「こころを整える～文化発心」の精神を踏まえ、未来の日本や世界に向けて伝えていきたい「大切な日本のこころ」とは何かを考え、発信する。

2. 「次世代」による文化の継承と新しい文化の創造

先人の功績と世代間の交流を大切に、若者など次世代による文化の継承と新しい文化創造の気運を盛り上げながら、未来への導となるメッセージを発信する。

3. 「ほんまもん」とアマチュアリズムとの融合

京都が誇るプロの「ほんまもん」とアマチュアの「ひたむきさ」を融合させた、京都の国民文化祭ならではの府民参加型ステージを創造する。

その他、企画演出上の配慮事項として、

開催会場の特性を活かし、「線」から「面」へ、さらに「立体」としての壮大な演出空間をどのように演出するか。

また、出演者だけでなく観客の参画を企画演出し、会場内の一体化や、サテライト会場を含めた府内全域の一体化をどのように図るか。

そして、全体を通じて日常感覚（日常性）を打ち破る「圧倒的なもの」（量、美、人間性、芸術性等）をどのように設定し、見る者にどのような感動を演出するか。

などの観点が重要である。

総合フェスティバル

（開会式・オープニングパレード・閉会式）

コンセプト&サブテーマ

（『ところ』のメッセージと『ところ』の灯火）

サブテーマ コンセプト	「ところ」のメッセージ	「ところ」の灯火 <small>（ところをつなぐイメージ例）</small>
<p style="text-align: center;">「ところ」膨らむ プレイベント</p> <p><コンセプト> 開催前年から、府内各地でのプレイベントや「ところ」をテーマにしたリレーシンポジウムを通じ、府内各地での開催機運を盛り上げるとともに、「『ところ』のメッセージ」を集約</p>	<p>街角掲示 「出演者等からのメッセージ」を、市町村や参加団体等の協力により街角に掲示。</p> <p>・懸垂幕、横断幕、ツリー等 ・電車、バス、タクシー等の乗り物、駅やバス停に代表的なメッセージを掲示</p>	<p>岡山</p> <p>府内各地域で採火</p>
<p style="text-align: center;">「ところ」踊る オープニングパレード</p> <p><サブテーマ> 語り合おう！大切な「ところ」 都大路から届けたい！ 新しい文化の息吹</p> <p><コンセプト> 全国からのマーチング隊をコアパレーダーとし、大学生など若者が企画運営するパレード（ダンス）コンテストなど、未来志向の活力あるパフォーマンスと、府民によるパレード応援隊の温かい交流あふれるホスピタリティ、都大路オープニングパレード</p>	<p>パレード参加団体による「『ところ』のメッセージ」プラカード 「『ところ』のメッセージ」 沿道の観客からの「『ところ』のメッセージ」</p> <p>・「メッセージ預かり隊」が観客からのメッセージを預かる</p>	<p>府内リレー</p> <p>府内各地域の ところの灯火が先頭を行進</p>
<p style="text-align: center;">「ところ」を整える～文化発心 開会式</p> <p><サブテーマ> 大切な「ところ」って何ですか？ 創り出そう！ 私たちの「文化絵巻」</p> <p><コンセプト> 「ところを整える～文化発心」をテーマに、文化の基本形と「大切な日本の『ところ』」を求めつつ、四季折々の美しい京都を背景に、日本文化の粋と文化創造の京都の息吹を表現し、新しい国民文化祭の幕開けにふさわしいオープニングステージとする。</p>	<p>「京都からの」そして「すべての参加者からの」 『ところのメッセージ』を朗読披露</p> <p>・府内五つの地域代表が地域のメッセージを披露。また参加者からの代表的なメッセージも紹介</p>	<p>メインランブに合火</p>
<p style="text-align: center;">「ところ」交わる 分野別フェスティバル</p>	<p>「京都からの」そして「すべての参加者からの」 『ところのメッセージ』を朗読披露</p> <p>・ステージでは演奏（演技）前に、展示会場ではメッセージカードを掲示して発信する</p>	<p>府内各会場に安置</p>
<p style="text-align: center;">「ところ」伝える 閉会式</p> <p><サブテーマ> 大切な「ところ」のメッセージ 京都から、世界へ、 今、私たちから！</p> <p><コンセプト> 「ところを整える～文化発心」をテーマに繰り広げた国民文化祭京都から、文化の基本形と「大切な日本の『ところ』」のメッセージを世界に発信するとともに、この国文祭で育まれた相互の絆と、文化創造の気運を次代に託しつつ、次回開催県へ大会旗を引き継ぐ。</p>	<p>メッセージを集約した「京都からの提言」リレーシンポジウムファイナルセッションを受けて二カ国語以上の言語で世界へ発信する</p>	<p>合火 納火</p>

オープニングパレード

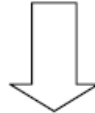
平成23年10月29日(土)
京都市御池通り付近

8 府民組織の「応援隊」で交流「都大路パレード」

平成18年夏、京都府で開催された京都総文のパレード部門は、府内の高校生がそれぞれ「応援隊」を作って沿道を埋めつくし、パレードの参加者と沿道の応援隊が温かい交流を繰り広げました。

国民文化祭・京都2011では、保育・幼稚園児、小中高の児童・生徒、大学生から各団体によるボランティア組織にいたる大規模な「パレード応援隊（仮称）」によって、沿道からの府民との温かい交流にあふれた「都大路オープニングパレード」を実施します。

《「実施計画大綱」》



●出演者、応援隊、観客の3層で交流する100万人の「都大路オープニングパレード」！

開催要項

(1) サブテーマ

【案】語り合おう！大切な「こころ」
都大路から届けたい！新しい文化の息吹

(2) コンセプト

SUPPORTER、PARADER、AUDIENCEの3者が一体となり、温かい交流にあふれた「都大路パレード」を繰り広げます。

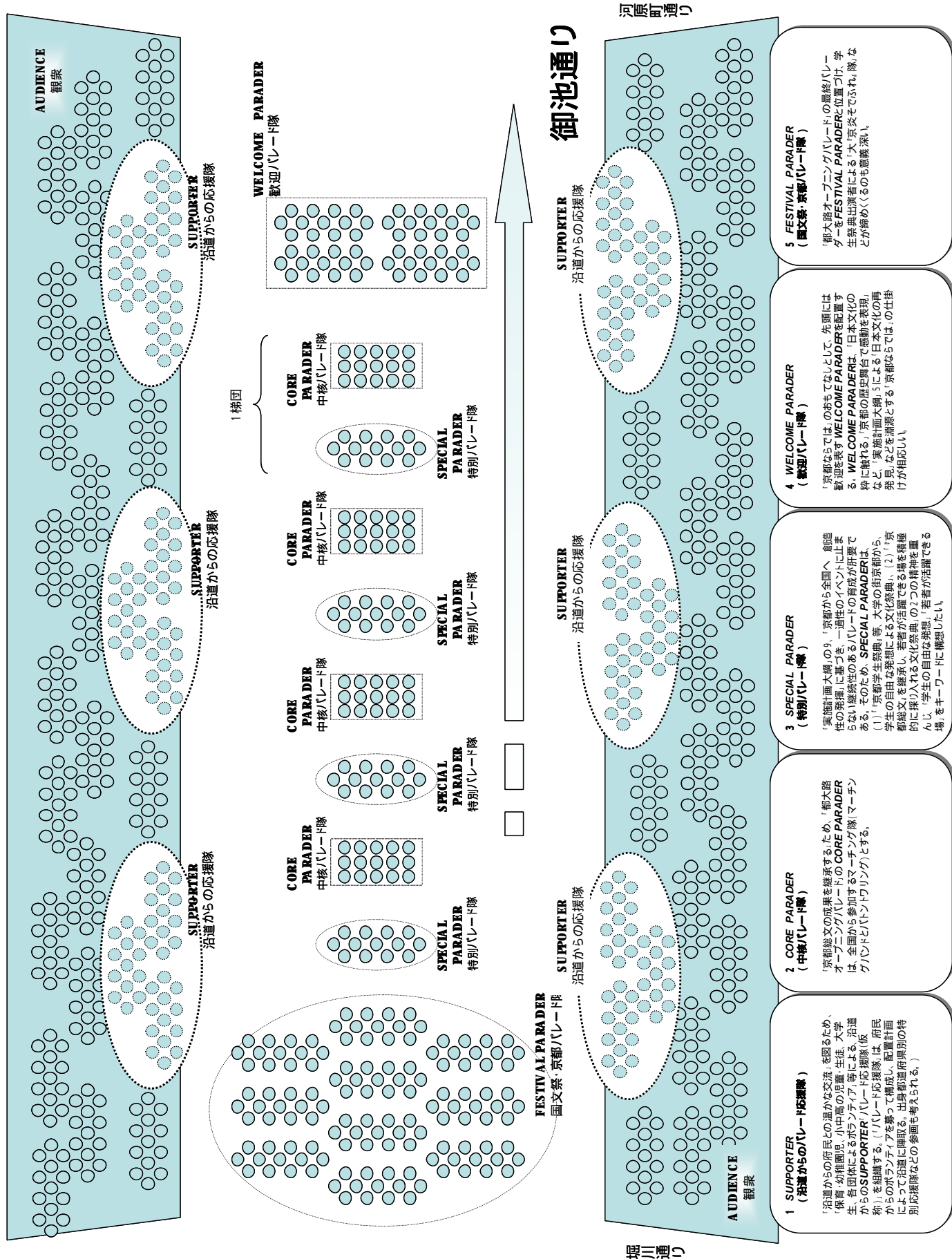
(3) 開催日時

開催日：平成23年（2011年）10月29日（土）
時 間：【案】11:00～13:00

(4) 会 場

御池通<堀川～河原町>（京都市）

詳細は、府実行委員会に設置するパレード委員会において検討していきます。

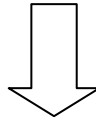


開会式・オープニングフェスティバル

平成23年10月29日(土)
国立京都国際会館

第26回国民文化祭の開会を高らかに全国にアピールし、四季折々、美しい表情を見せる京都を舞台に、総合フェスティバルにおいて、「音」「香」「味」「光」「触」「映像」等を駆使して日本文化の粋を体現するとともに、その歴史をひもとく壮大な「日本文化絵巻」を展開し、国内最大の文化の祭典にふさわしいオープニングステージを演出します。

(基本構想)



府内で活躍する伝統芸能関係者、音楽家、脚本家等により、国文祭オリジナルのステージを演出し、出演者は京都を代表するアーティストをはじめ、広く府民から公募し、プロとアマによる手づくりの総合舞台芸術作品を創造。会場となる国立京都国際会館の特性を活かしたステージ演出と構成。

開催要項

(1) サブテーマ

【案】大切な「こころ」って何ですか？
創り出そう！私たちの「文化絵巻」

(2) コンセプト

「こころを整える～文化発心」をテーマに、文化の基本形と「大切な日本の『こころ』」を求めつつ、四季折々の美しい京都を背景に、日本文化の粋と文化創造の息吹を表現し、新しい国民文化祭の幕開けにふさわしいオープニングステージとする。

(3) 開催日時

開催日：平成23年(2011年)10月29日(土)
時間：【案】15:00～17:30(パレード 11:00～13:00)

(4) 会場

国立京都国際会館(京都市)

基本構成・会場等

(1)基本構成案 ～ 創り出そう！私たちの「文化絵巻」～

時間	項目	内容（例）
	会場交流	記念歌の事前歌唱指導(フイヤーで全員合唱)
「心を整える」ウェルカムセレモニー（10分）		
15:00 15:10		京都の文化を象徴するデモンストレーション
プロローグ（20分）		
15:10 15:30		音楽の催し等
開会式典（30分）		
15:30 16:00	開式の辞 国歌斉唱 主催者挨拶 皇太子殿下お言葉 来賓祝辞 歓迎の言葉 こころのメッセージ 開会宣言 記念歌歌唱 閉式	国歌斉唱 国実行委員会会長 府実行委員会会長（京都府知事） 皇太子殿下 文部科学大臣 京都府議会議長
オープニングステージ（60分）		
16:00 17:00		脚本・演出はプロデューサーと調整
エピローグ（10分）		
17:00 17:10		記念歌合唱等
国文祭京都の案内（20分）		
17:10 17:30	終演	（サテライト会場画面インサート）

(2) 会場(国立京都国際会館)

<会場(メインホール)概要>

面積 2,040㎡

フロア 1階～4階吹き抜け

レイアウト 固定席: 1,840席

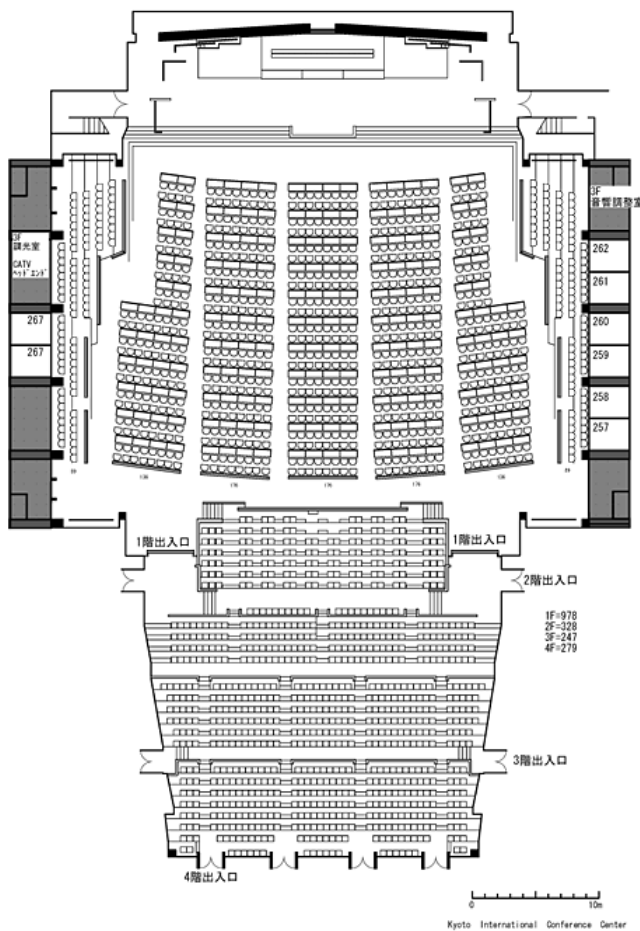
1階席: 800席

1階両サイド席: 各89席

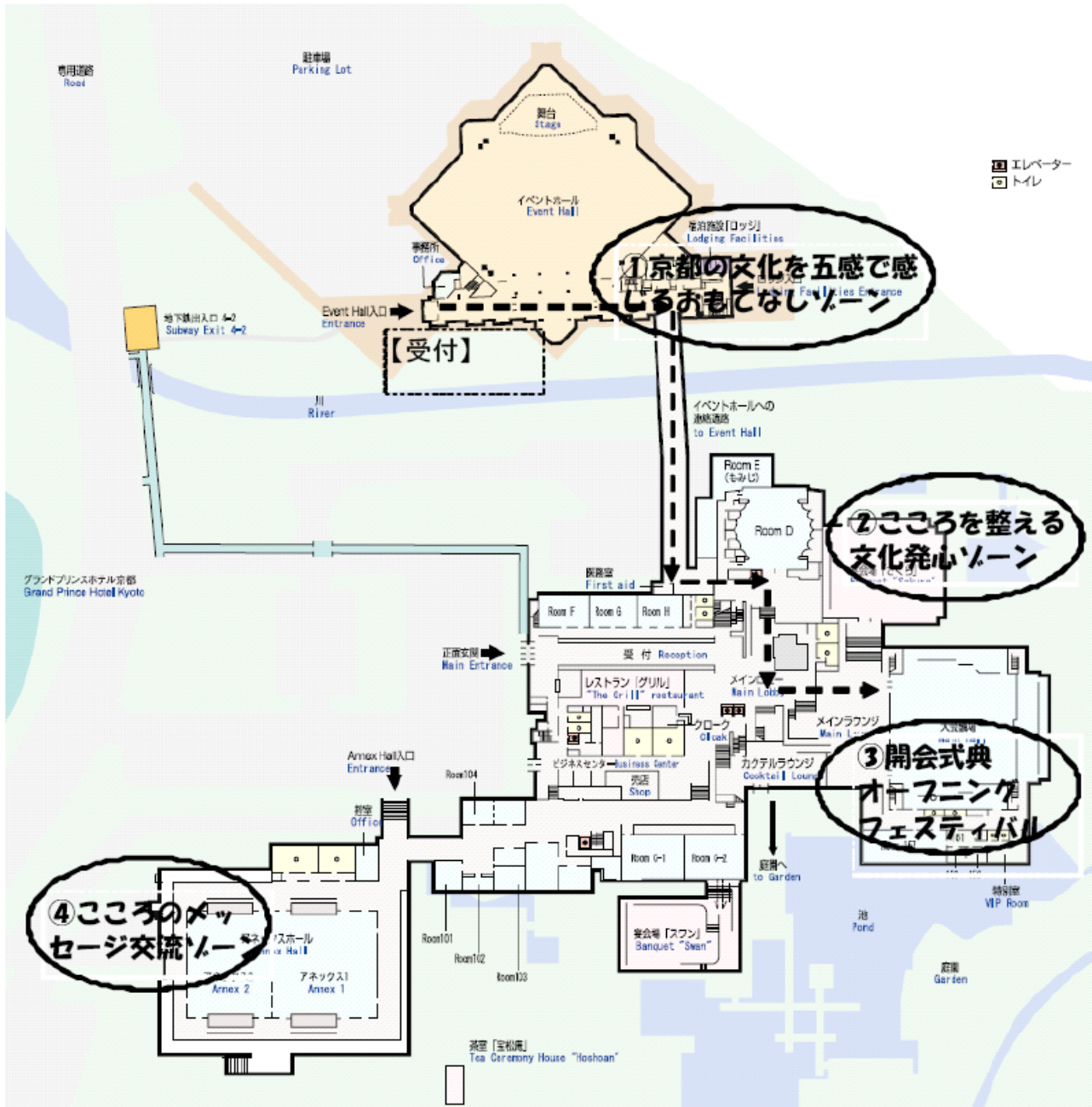
2階席: 336席

3階席: 247席

4階席: 279席



開催会場フロア・全体イメージコンセプト



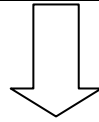
会場・場所	ゾーニングコンセプト
イベントホール	五感で感じる京都文化
連絡通路からホール内へ	「ところ」の世界への扉（文化発心ゾーンへの結界）
宴会場「さくら」	「ところを整える～文化発心」（テーマ作品の展示等）
アネックスホール	世代と地域を越えた「ところのメッセージが交流」

閉会式・グランドフィナーレ

平成23年11月6日(日)
京都会館

最後を飾るフィナーレにおいて、国民文化祭での交流を通じて育まれた相互の絆と、京都開催で生み出された新文化創造の気運を次代に引き継ぐため、「未来・創造～子どもたちへ(仮題)」をテーマに、若者などの自主企画によるステージパフォーマンスを展開し、次回開催県に大会旗を引き継ぎます。

(基本構想)



次代の日本の文化を担っていく若者や若々しい躍動感あふれる感性に焦点を当て、音楽、ダンスなどを中心に、出演者と来場者が一体となる演出「大切なこころのメッセージ」とは何かを、京都を代表する文化関係者のうち、国民文化祭の大会関係者によるシンポジウムを開催し、宣言文を世界に発信。

開催要項

(1) サブテーマ

【案】大切な「こころ」のメッセージ
京都から世界へ 今、私たちから！

(2) コンセプト

「こころを整える～文化発心」をテーマに繰り広げた国民文化祭京都から、文化の基本形と「大切な日本の『こころ』」のメッセージを世界に発信するとともに、この国民文化祭で育まれた相互の絆と、文化創造の気運を次代に託しつつ、次回開催県に大会旗を引き継ぐ。

(3) 開催日時

平成23年11月6日(日) 14:00～17:00

(4) 会場

京都会館(京都市)

基本構成・会場等

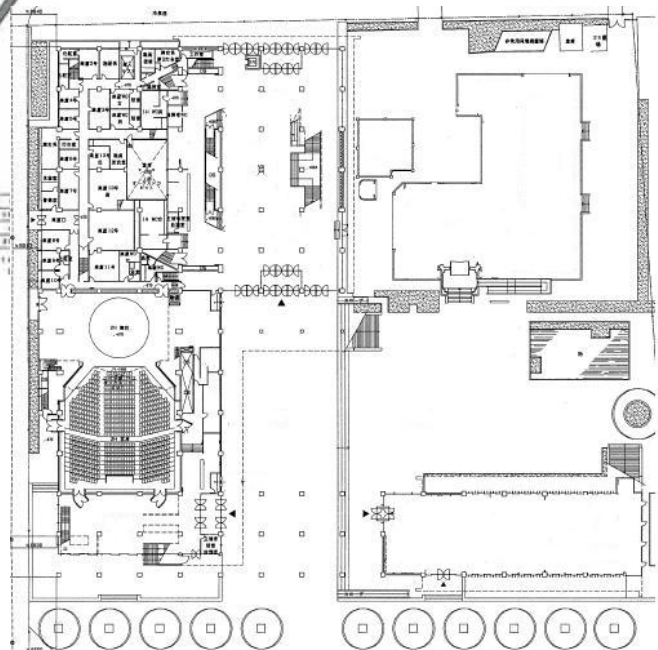
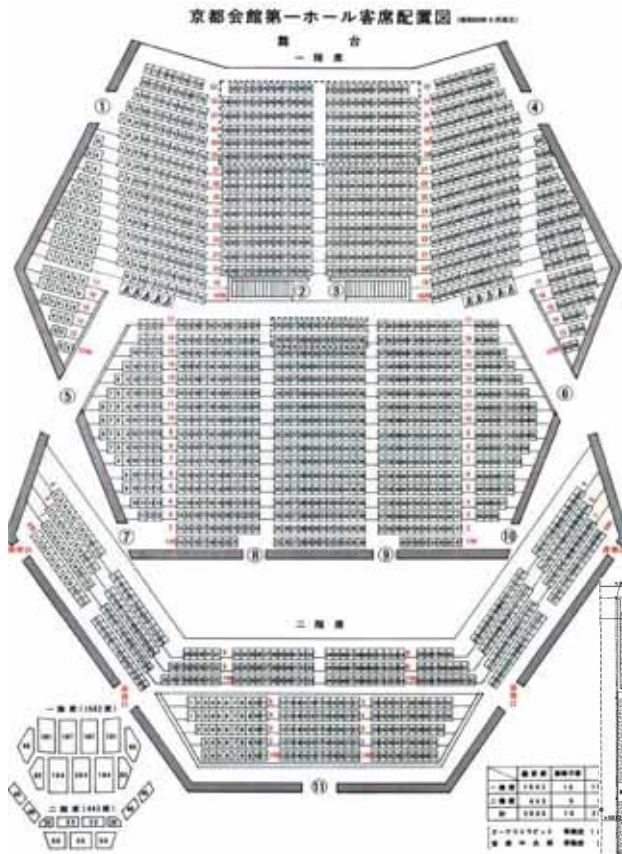
(1)基本構成案 ～京都から、世界へ、今、私たちから！～

時間	項目	内容(例)
14:00 14:15	歓迎パフォーマンス 会場交流	中庭、ロビー等を活用 記念歌の事前歌唱指導(グランドフィナーレで全員合唱)
ウェルカムパフォーマンス(20分)		
14:15 14:35		こころをテーマにした舞台演出等
シンポジウム「『こころ』の宣言文」～ファイナルセッション～(70分)		
14:35 15:45	各会場ライブ映像 『こころ』のアンケート 基調講演 シンポジウム 『こころ』の宣言文 (休憩:15分)	「『こころ』のアンケート」結果発表 基調講演者: コーディネーター: パネリスト: 「『こころ』の宣言文」朗読 ・ウェルカムセレモニーパフォーマー
閉会式典(30分)		
16:00 16:30	主催者挨拶 国民文化祭旗の引継 次期開催県挨拶 次期開催県パフォーマンス	主催者代表による挨拶 次期開催県へ国文祭旗引継 山梨県知事の挨拶 山梨県のパフォーマンス(県側と要調整)
デモンストレーション(20分)		
16:30 16:50	パフォーマンス	踊りなどのパフォーマンス
グランドフィナーレ(10分)		
16:50 17:00	フィナーレ 終演	記念歌の全体合唱

(2)会場(京都会館)

【第1ホール】

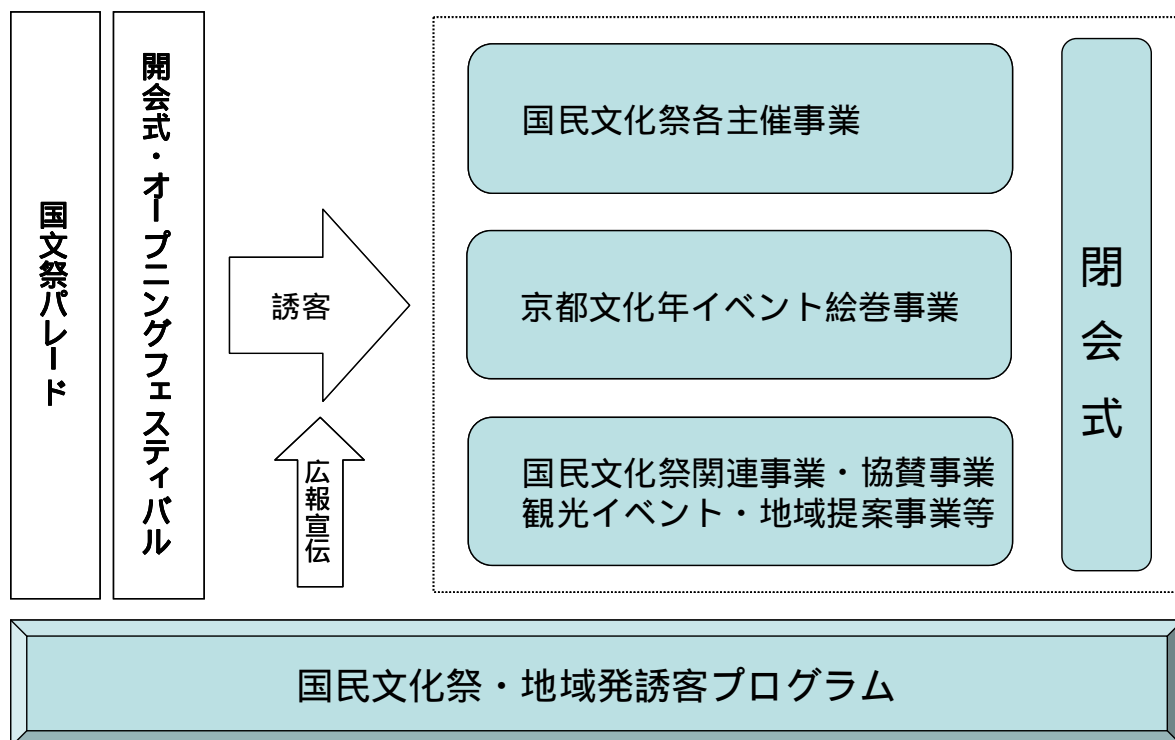
収容定員 2,015名(車いすスペースを含む)
 1階固定席 1,562席
 2階固定席 443席
 固定席合計 2,005席
 車いすスペース(1階) 10台
 ただし,オーケストラピット使用時は,142席減少,また,客席移動席スペース使用時は,24席減少



パレード、主催事業、京都文化年事業、観光と連携した誘客戦略について

開会式典直前のパレードで多くの参加者・観客を引きつけた後、拡散しないよう、広域的な観客動線を計画し、総合フェスティバルをはじめ、各主催事業、京都文化年事業、関連事業への誘客・アプローチにも結びつけるなど、盛上げ気運を時間軸及び面的にも確保するための総合的な誘客戦略を構築。

<国民文化祭誘客戦略イメージ>



高校生等による「お出迎え・おもてなしプログラム」～「京都総文の感動をもう一度」

平成18年の全国高等学校総合文化祭（京都総文）の会場となった国立京都国際会館において、「あの感動をもう一度」「先輩が体験したあの会場で私たちも」との現役高校生・OBからの熱い期待の声を背景に、国民文化祭高校生奨励賞受賞校を中心に、府内の高校生が、全国からの参加者や皇族殿下をお出迎えし、茶道、華道、楽器演奏などで日頃の研鑽成果を披露し、おもてなしする若々しくも躍動感あふれる京都ならではの高校生式典参加プログラムを構築。